## 中東レポ | |**\**|

## カタール

サウジなどによる断交・経済封鎖から三年

国力回復で独自外交に回帰

二〇一七年六月、周辺の湾岸諸国などから突如断交されたカタール。

さにあらず。

カタール「復権」の真相を読む。 経済封鎖を受け苦境に陥ったかと思えば、

> 中東研究センター主任研究員 日本エネルギー経済研究所

リック・ティブロマシーの展開」 連論文に「カタル危機におけるパブ 博士(地域研究)。一七年から現職。関 フリカ地域研究研究科博士課程修了。 二〇二 年京都大学大学院アジア・ア ほりぬき こうじ 一九八二年生まれ

よばれるサウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)、バー よる外交対立「カタール危機」である。「カルテット」と その一つが、二〇一七年六月から続くカタールと周辺国に や空域を閉じて経済封鎖を敷いているのだ。 本的な構図であり、さらに多くの分断も埋め込まれている レーン、エジプトが中心となり、カタールと断交し、 今日の中東 湾岸情勢は、 激化する米・イラン対立が基 国境

盟国として、安全保障分野を中心にサウジなど他の加盟国

もともとカタールは、湾岸協力会議(GCC)

諸国の加

と協調関係にあった。しかし、先代のハマド首長(一九九五

が次第に不安定化していった。その背景には、

かす「テロ組織」と認定しており、それを支援するカター これに対して親和的な報道をしてきた。ところが、サウジ 関係を維持しており、 した。例えばカタールは長年にわたりムスリム同胞団との を生かし、紛争や政治対立の仲介なども行った。 的なパワーを獲得したことがある。小国ならではの小回り 天然ガス収入が増加し、 ルは「テロ支援国家」に他ならなかったのだ。 アラビアやUAEはムスリム同胞団を、 また、カタールの独自外交は、時にGCCの方針と衝突 同国の衛星放送局アルジャジーラも 豊富な資金をもとに外交的 体制の安定性を脅

~二〇一三年)の時代から、カタールと周辺国の外交関係 カタールの の一途をたどるようになった。二〇一四年には、サウジア 特に「アラブの春」後、カタールと周辺国の関係は悪化

断絶を含む一三項目の要求を突き付けた。 医引き揚げたのである。いったんは関係が正常化したもの、一七年にカタール危機が発生した。カルテットはカターの、一七年にカタール危機が発生した。カルテットはカターの、一七年にカタール危機が発生した。カルテットはカタールが内政干渉やテロ支援を行っていると再度主張し、同国が、カタールの行動ラビア、UAE、バーレーンの三ヵ国が、カタールの行動

かったのである。生まれの若きタミーム首長の下で団結し、国難に立ち向生まれの若きタミーム首長の下で団結し、国難に立ち向承服できるものではなかった。カタール国内は一九八〇年経済封鎖やその後の要求は一方的なものであり、とうていしかし、カタール側から見ると、カルテットからの断交・しかし、カタール側から見ると、カルテットからの断交・

独自外交に回帰している。

## 経済封鎖を乗り切るが、外交危機は長期化も

については乳牛を大量輸入するなどして、一〇〇%の自給用品、建築資材などの安定確保に努めた。それまで、これらの物資はサウジアラビアやUAEのドバイを経由して輸入されていた。しかし、経済封鎖後はクウェートやオマー入されていた。しかし、経済封鎖の直後から、食料品や日常生活カタール政府は経済封鎖の直後から、食料品や日常生活

は依然として不透明なままだ。●
は二○年二月に交渉が中断されたと発言しており、先行きは二○年二月に交渉が中断されたと発言しており、先行きのような中、問題解決へわずかな光が差し始めた。